

# 流域治水プロジェクトの取組事例集 (大岡川水系)

(大岡川流域治水協議会)

横浜市

# 洪水氾濫対策 【河川改修事業による河道整備】

氾濫をできるだけ  
防ぐ・減らす  
ための対策

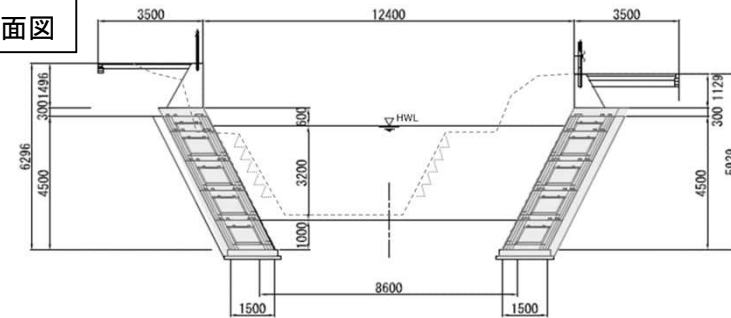
- 大岡川水系準用河川日野川においては、時間雨量約50mm規模の降雨による洪水を安全に流下させるため、準用河川改修事業等により河道整備を進めている。

## 実施状況

### 平面図



### 標準断面図



大岡川流域において、上記を含む類似・同様な取組を実施している自治体  
横浜市、神奈川県

横浜市

# 内水氾濫対策 【雨水貯留施設の整備（下水道）】

氾濫をできるだけ  
防ぐ・減らす  
ための対策

- 大岡川流域では、10年確率降雨（1時間当たり約60mm）に対応するため、大岡川右岸雨水幹線の整備を進めている。

## 実施状況

整備イメージ



対策内容	実施主体	工 程		
		短期	中期	中長期
雨水排水施設の整備	横浜市	→		

大岡川流域において、上記を含む類似・同様な取組を実施している自治体  
**横浜市**



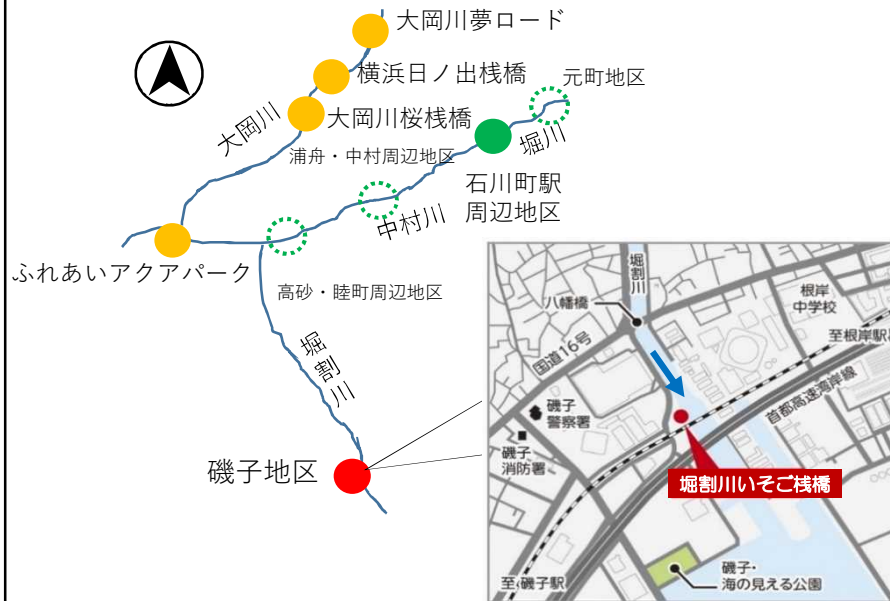
# 避難体制等の強化 【多目的栈橋の整備】

被害の軽減、  
早期復旧・復興  
のための対策

- 大岡川水系の河川を活かしてまちの魅力を高めるため、大岡川河川再生計画を策定し、まちづくりと連携して親水施設等の整備を行っている。
- この親水施設には、浮さん橋、荷揚げさん橋も整備しており、水上レクリエーションの活性化や、まちの賑わい創出、また緊急時の物資輸送への活用が期待されている。

## 取組内容

### ■整備箇所



### ■整備状況



対策内容	実施主体	工程		
		短期	中期	中長期
多目的栈橋の整備	神奈川県			

大岡川流域において、上記を含む類似・同様な取組を実施している自治体  
**神奈川県**

# 避難体制等の強化 【洪水浸水想定区域の看板設置】

被害の軽減、  
早期復旧・復興  
のための対策

- 神奈川県では、住民の自主的な避難を促すソフト対策の一環として、洪水浸水想定区域を周知するため、浸水が想定される県管理河川に、看板の設置を進めている。

## 取組内容

### ■設置状況



大岡川 日ノ出棧橋

### ■洪水浸水想定区域の看板事例



対策内容	実施主体	工程		
		短期	中期	中長期
洪水浸水想定区域の看板設置	神奈川県	▶		

大岡川流域において、上記を含む類似・同様な取組を実施している自治体  
神奈川県



# 避難体制等の強化 【危機管理型水位計の設置】

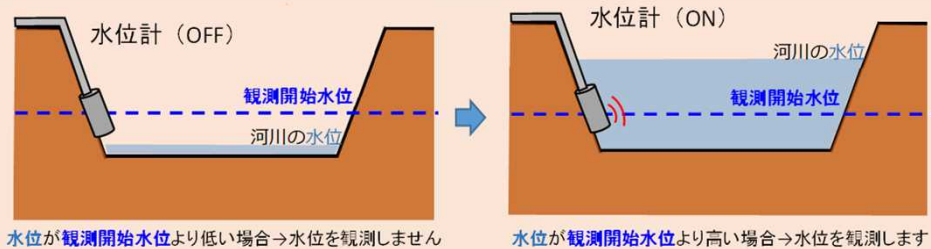
被害の軽減、  
早期復旧・復興  
のための対策

- 住民の適切な避難判断のための水位情報提供を目的に、これまで水位計の無かった箇所でも水位把握できるよう、洪水時の水位観測に特化した低コストな水位計を設置することで、出水時の水位観測により避難体制の強化を図る。

## 取組内容

### ■危機管理型水位計とは

- ・ 洪水が発生した際に、河川周辺の住民の皆様が避難する際に、役立てていただくために設置する水位計。
- ・ 河川が未整備のため注意を要する箇所や、学校や病院など、重要な施設が周辺にある箇所に設置。



### ■危機管理型水位計の設置事例



### ■県ホームページから水位状況を確認することが可能



対策内容	実施主体	工程		
		短期	中期	中長期
危機管理型水位計・簡易河川監視カメラの設置	神奈川県	▶		

大岡川流域において、上記を含む類似・同様な取組を実施している自治体  
**神奈川県**

# 避難体制等の強化 【マイ・タイムラインの取組推進】

被害の軽減、  
早期復旧・復興  
のための対策

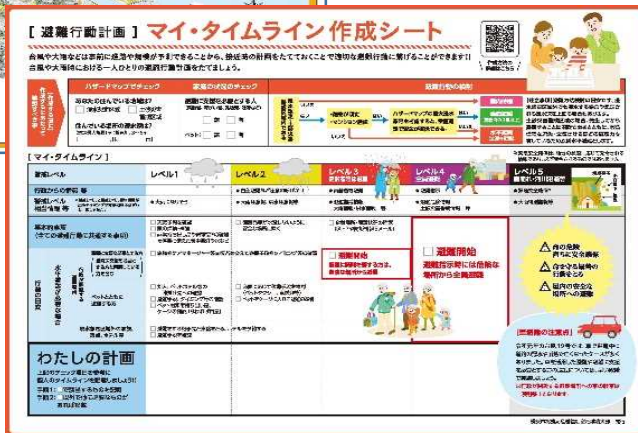
- 横浜市では、風水害時の「逃げ遅れゼロ」を目指し、「浸水ハザードマップ※」と合わせた全戸配布や研修の実施、防災アプリ(横浜市避難ナビ)の活用など、市民一人ひとりが適切に避難できるよう「マイ・タイムライン」の周知啓発や作成支援の実施・強化を進めている。

※「浸水ハザードマップ」：洪水・内水・高潮の浸水想定区域等を1冊にまとめたマップ

## 取組内容

### 取組状況

浸水ハザードマップとマイ・タイムラインの全戸配布



### 取組状況

マイ・タイムライン作成支援の研修実施



大岡川流域において、上記を含む類似・同様な取組を実施している自治体  
横浜市、神奈川県



横浜市

## 関係者と連携した早期復旧の体制強化 【排水ポンプ車の整備・運用】

被害の軽減、  
早期復旧・復興  
のための対策

近年の気候変動の影響と考えられる自然災害が増加・激甚化しており、本市においても多くの浸水被害が発生している。このような超過降雨による浸水被害の早期解消を図ることを目的として、令和3年8月に排水ポンプ車2台を導入した。

また、民間団体と締結している災害時の協定内容に「風水害時」を追加して、体制強化を図った。

### 取組内容

#### ■排水ポンプ車の概要

車両総重量:5t  
車体寸法:全長4,650mm、全幅1,670mm、全高1,930mm  
排水能力:2.5m<sup>3</sup>/min 揚程:20.0m  
排水ホース:口径150mm



#### 【排水ポンプ車による排水作業】

災害時は、土木事務所からの連絡を受けた事案について、協定締結団体と連携して対応することを基本とする。降雨中の使用においては、排水先を確保することが困難であることや作業に危険が伴うこと、大規模な浸水が発生する以前の避難が基本であること等から、降雨が最盛期と考えられる状況では使用しないことを原則とする。



被害を想定した実地訓練を経験してイメージを掴む

対策内容	実施主体	工 程		
		短期	中期	中長期
避難体制等の強化	横浜市	→		

大岡川流域において、上記を含む類似・同様な取組を実施している自治体  
横浜市